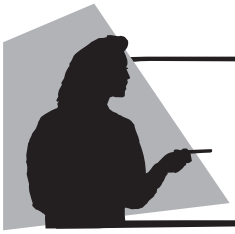
HSK
きさらぎ
如月号
NO.123 2011.2.10号
Advocate

1973年1月13日第三種郵便認可 HSK通巻番号467号
発　行/2011年2月10日
編集者/我妻　武
住　所/〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F
特定非営利活動法人 札幌・障害者活動支援センターライフ
TEL 011-614-1873 FAX 011-613-9323
H P http://npolife.net/
発　行/北海道障害者団体定期刊行物協会
定　価/100円



ライフ新事業の提起について

事務局理事 我妻　武

日頃からライフを応援してくださっている方々に紙面を借りて改めてお礼申し上げます。

ご支援、ご協力をいただいている皆様へ、今年ライフが取り組む新たな事業の決意表明として一筆啓上いたします。

ライフも設立して20年が経ちました。この間、一貫して障害者の就労と生活の場を確保することを一番の目標にして取り組んできました。ワープロという機器（開所当時）は、重度の障害者の就労にもつながるのではないかという考え方からスタートしました。

現在では、ライフを利用するメンバーに合うような事業もいくつか展開し、ほんの少しですが工賃アップもできるようになりました。

また、今年は新たな拠点となる場の確保と新事業の展開もできそうです。こうしたことから、わずかですが光が差してきたような気もしています。

しかし、依然として生活の場を確保する取り組みについては、なかなか進んでいないのも事実です。昨年にはライフを利用するメンバーの事情から、ライフで暮らしをサポートすることがありましたが、このことはライフとして住居の問題についてどう取り組むのか、改めてきちんと考える必要に迫られました。

さらに、ここ数年気になっていたこととしては、ライフを利用しているメンバーの高齢化と障害の重度化です。こればかりは予防をするにも限度があります。

ライフは就労をメインに取り組んできましたが、この間、障害が重くなるなどの理由で「仕事を行うことが難しくなったからライフへ通うのは大変」と去って行った仲間を、残念ながら引き留めることができませんでした。

事務局でも議論を重ねてきましたが、ひとつの場として、自立支援法のサービス体系にある生活介護事業所を開所し、現状の中でライフの作業に困難を抱えるメンバーを包括できる新たな拠点を作ろうと検討を始めたところです。

また、障害者への生活介護サービスを提供するとともに、これまでの仕事とは違った仕事を行う場として、また、余暇活動を通しながら上質の生き方をしてもらえるような、日中活動の場を提供したいとも考えています。

具体的な内容については、これからとなりますが、これまでライフでは就労ということが大きなテーマでした。実はこれまでもメンバーの生き方、まさにその人のライフステージをどう確保していくか、という考え方や取り組みをしてきたつもりですが、それよりも就労に関することが優先で、じっくりと考えられなかったという反省があります。ですから、それぞれのライフステージに合った、さらにこれまで通りに地域にこだわり、そうした中から多くの選択肢を提供していこうと考えています。今回の生活介護事業所もそのひとつということになります。

どうぞこれらの取り組みについてもご理解をいただき、引き続きご支援、ご協力いただければ幸いです。

―― 周りの人と愉しんで仕事をすることが大切だと感じた研修 ――

※本原稿は大谷強さん（京都府在住）のＨＰに2011.02.10付けで紹介されたもので、アドボケイト11月号に掲載された金子奈保子（NPOライフ・もじや所属）の原稿に対してのコメントです。
※大谷さんは経済社会保障についてのご研究をこれまでされています。他にも障害当事者と共同の運動をこれまで数々されています。詳しくは、HPをご覧ください。
「ノーマライゼーション政策研究」http://www.ops.dti.ne.jp/~t-otani/index.html

大 谷　強（障害者政策研究全国集会・実行委員）

「研修会に参加して」

もじや　**金子 奈保子**

コミュニケーションの大切さ ――

11月6日土曜日に、ゴッツォ株式会社の（代表取締役社長）宿田牧夫さんをお招きしてライフの研修会が開かれました。編集や、聞き慣れない言葉ですがブランディングコンサルタントという仕事を手がけられている方で、コミュニケーションの重要性について語っていただきました。

お話を聞きながら、自分は仕事をする上で、どのように人とコミュニケーションをとってきたのか振り返ってみると、今まで出会ったたくさんのお客様のことが思い出されました。講演の中で、仕事は何より「愉しむ」（たのしむ）ことが大切だともおっしゃっていました。

しかし自分1人で愉しんでも意味はないですよね。お客様や仲間と愉しんで仕事ができなければ、ただの自己満足になってしまいます。

就職すると最初の壁にぶつかる ――

私はデザインの専門学校を出て就職したのですが、就職してみんながぶつかる最初の壁があります。学校では、自分の好きな作品を作っていればそれでいいのですが、仕事となるとお客様の指示通り或は、要望通りに作らなければならない。

一般的な広告代理店やデザイン事務所では、クリエイティブな仕事なんてほとんどありません。何年か踏ん張ると（とはいえ全然経験も知識も浅い私ですが）、仕事の中に、自分のアイディアやイメージを組み込んで、ものづくりをする楽しみを発見できるのですが、最初の壁にぶち当たり、自分の想い描いていたデザインや制作の仕事とのギャップに悩み、ものづくりの仕事から離れる友人がほとんどです。自分を主張したいのであれば、休みの日にいくらでも好きな絵を描いていればいいのですから。

印刷業界は、ますます落ち込んでいくことが予想されますが、どうしたらお客様に満足していただけるかを考え、ただの自己満足になってしまわないように愉しんで仕事をしてきたいと思っています。

自己満足とお客様を分かつ軸に関連して――大谷さんのコメント（1）

上に掲げた文中でしきりに「自己満足」とでている。これに関連して、研修会の様子を巻頭で描写した我妻武さんの文章によると、作り手が満足するものは「製品」であり、お客様に満足していただくものは「商品」との区別があるという宿田さんの指摘があるという。商品市場に関した表現ではあるが、それぞれの行動に裏打ちされた思いが込められているだろう。

コミュニケーションの重要性は別な表現に読み替えることができる。障害者の労働に多く使うことがあるが、お客さんや自然に対する労働は積極的に働きかける人権の面で重要であり、仕事を通した仲間との連携は対人関係の面で重要となり、自分の力を発揮する面で自分に誇りを持つと言う点と合わせて３つの視点から構成されるとなる。

外部の要因に対してと仲間を信頼する面と自分の力に対する自信と、この3つのうちどれもが重要だとなる。人として労働をすることの意義は実現されることにあると整理している。この文章ではそれを「愉しむ」という表現で使っていると思う。

研修の確実な成果が「社会的事業所」の発展に期待できるだろう——大谷さんのコメント（2）

ライフの研修は、多くある障害者事業所とは異なるところが多いと思う。一流の仕事で商売を通して学んでいるだけに、何気なく過ごしている日々の障害者作業所を革新しようというものだろう。

それは、障害者の作業所についてのいわゆる「福祉」の研修という事例ではない。一般の仕事にも当てはまる「社会的事業所」（呼び名はいくつかある）についての研修であろう。

だから研修を受けた筆者もお客様や仲間を通じて「果たしてコミュニケーションがどうであったのか」を振り返っているのだと思う。日々の仕事を通じて他人との接点を振り返るという点で、研修の効果はあったと思う。

研修を通じてさらに仕事で「愉しむ」ということから、日々の仕事をもう一度見直している筆者の視点は重要なものである。筆者の「自分を主張したいのであれば、休みの日にいくらでも好きな絵を描いていればいいのですから」という表現は、この研修において積極的に受け止め方を表現したものであろう。こうした姿勢が「社会的事業所」の運営に生かされるように望む。

お客様相手の仕事の難しさを表現している——大谷さんのコメント（3）

仕事を「当たり前に」こなしているにもかかわらず、利用者に評価されない（したがって売れない）という表現は「当たり前」の尺度が違うようだ。このことに実際に社会で働くようになってから気がつく人は多いようだ。

製品でも出来が良いのを利用者（お客様とか消費者とも言う）が選んでいるのではなく、消費者は最初からは自分の要望をかなえて欲しいと願っている。消費者はあらかじめニーズを持っているのだ。デザインの仕事にはとくに重要だろう。

そのうち消費者と制作者が親しくなってくると、消費者が意図したことが表現できると制作者が提案できるようになる。消費者の意図は明確に意識されているとは限らない。多くは密やかなものに止まる。

その段階まで到達するには、数多くのニーズを持っている消費者との付合いが必要だ。自分に固有の表現を大切にしたい多くの者は、数多くの思いを待っている消費者との付合いに疲れてしまって、折角就職した会社を辞めてしまうという。優れた表現者を仕事に活かさないという会社にとっては大きな損失であろう。

ただ、その際に注意することは、いわゆるその道の「専門家」になってしまう危険性もある。いつも新鮮な視点で消費者の意図したニーズを探り当てることが大切だ。研修は制作者にいつまでも新鮮な視点を振り返ることができるという重要な意義を思っているということができる。

研修によって印刷業界の今後を考えると——大谷さんのコメント（4）

これまで多くの産業が衰退していった。とくに金子さんは文字全般（印刷だけではなく、その編集・制作や企画やテープ起こしや名刺・小冊子の印刷やホームページの作成管理まで）を扱う共働事業所「もじや」で仕事をされている関係から印刷業界に詳しい。印刷業界は家庭用のパソコンとプリンターで通常の印刷は家庭でできるようになった技術変化を受けてきた。

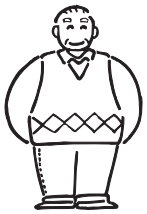
それだけに印刷業界の消費者は家庭用の代理ではないものを求めているだろう。しかし、新聞に挟み込まれる多くのチラシは印刷業界の製品である。最近衰退気味になっているが新聞そのものも印刷によるものだ。あるいは機関紙類も同様であろう。開き直って現在の技術では、印刷自体がなくなるわけではない。確かに市場規模で言うと年々狭くなっていることは事実だと思う。しかも利益幅が圧縮されている。

社会的事業所としてのこれからの印刷業は消費者の近くに立地している必要はある。地域に根ざした印刷業の可能性はないだろうか。社会的事業所としては地域の支援が基本である。さらには利用者の抱いていた表面化しない複雑な意図を表現してくれる印刷業としても発展の余地はあるだろう。事態の変化について楽観的すぎるだろうか？

『おひとりさまとおたがいさま、分かち合い』

専務理事　石 澤 利 巳

東大教授の上野千鶴子さんは、著書「おひとりさまの老後」「男おひとりさま道」で、一人暮らしの女や男たちの、隣人との付き合い方や関係づくりを書いている。「おひとりさまの老後」の副題がまたいい。「結婚していようがいまいが、だれでも最後はひとり」。「おひとりさま」は「どこでどう暮らすか」、「だれとどうつきあうか」と続き、「おひとりさまの死に方５条」で終わる。上野さんは、「老い」が怖いことではない事をこの著書で表現しているように思う。



私も間もなく、58歳になる。最近とみに「老い」を考えるようになった。「老い」とは「恐怖」なんだろうか。その恐怖は「孤独感」「孤立感」にあるのだろうか。その恐怖から解き放つ方法は、あるのだろうか。上野さんは「助けてー」と言えばいいんだと書いている。要するに、「おひとりさま」が生きていくには、「おたがいさま」が必要なんだということではないでしょうか。

札幌版ソーシャルファームの課題

私たちは、社会的に排除された人々と共に働く事業所を目指して、札幌版のソーシャルファームづくりに動き出している。様々な人たちが働く場として位置づけているため、行政のセクションはどこになるのだろうか？どのような事業づくりが可能なのか？ということに思いが募る。そこで、どのようなキーワードで札幌版ソーシャルファームを作っていこうとしているのか、方向性を考えてみた。

ソーシャルファームなので「働く」ことが軸になるのだが、私は**「学ぶ」「暮す」「働く」「老い」**の４つを軸に考えてみたい。

「学ぶ」こと

学ぶのは、学校教育だけではない。引きこもりの人や不登校の人が学ぶ、フリースクールや夜間中学校。再就職希望者や障害者等の職業訓練や趣味を学ぶ。また、いろいろな人の人生や経験を学ぶことも重要なことだ。お互いが教える人、教わる人になることもいい。

難しい福祉制度も、役所言葉や役人的接し方ではなく、当事者目線で理解しやすいシステムや制度の活用方法を習得する「学ぶ」。人生いろいろ、学び方もいろいろでいい。

「暮す」こと

家族と暮らす。恋人や友人と暮らす。高齢者も若者も、障害者も健常者も、互いに支え合いながら、「隔離」「管理」ではない暮しの場が求められる。

介護を必要とする人も、大きな施設ではなく、気の合う人たちと喜怒哀楽を共有出来ることがいい。

「働く」こと

いろいろな機会で発言してきたので重複は避けるが、人生やり直しができることが重要。一度の失敗の先が自死（自殺）ではあまりにも悲しすぎる。障害者に限らず、通常の雇用形態から排除されたり、その形態に馴染めない人たちが働ける場は重要である。

「老いる」こと

前述した、「おひとりさま」の生き方とも重なるが、「無縁社会」「孤独死」という絆の崩壊が、「老いの恐怖感」なんだろう。「おたがいさま」といって生きていける社会、そうやって死んでいける社会が、私は好きだ。

何か困ったときに、「助けてー」と叫ぶことが出来ること、その声を受け止めることができること。これは、私たちNPOや社会福祉法人の役割だ。しかし、それだけでは、「助けてー」には応えきれない。「公（おおやけ）」がそのバックアップ体制をしっかり作ることでなければ、自助や共助だけでは限界がある。まして、行政主導の「ソーシャルファーム」は福祉的就労と何ら変わり映えしないものになる。

人の人生を、縦に割って評価できるものではない。まとめて一人の人間である。行政もここ一番、一丸となってソーシャルファームにバックアップア体制作りに臨んでほしい。

「おたがいさま」と言い合える日を目指して。

社会的事業所集団
傍楽亭（はたらくてい）

アウトソーシングセンター
元気ジョブ

札幌市西区二十四軒4条6丁目５-32
テラ二十四軒１Ｆ
TEL（011）633−6666
FAX（011）644−0088

仕事をするって…なんだろう。

山野　昌義

元気ジョブの業務を行って最近感じた事は、「仕事をするって…なんだろう。」という事です。例えば、お客さんに「あなたの事業所の商品を売りに来て欲しい」と要望されたらその商品を製造し販売する事だけが仕事をすることなのでしょうか。「このチラシを折って封入して欲しい」と要望されたらそれだけをこなせばいいのでしょうか。もし、売上が上がらなければ、どのように販売すればより多く売れるのかという事やどの様な接客をすればお客様に「もう一度購入したい」と思ってもらえるのか。また、このチラシはきれいに折れているかなどの検品をしっかりと行うことも「仕事をする」ということだと思います。

お客様に要望されたことを「できない」と判断するのは簡単なことですが、お客様の要望の応えられる可能性があるのか、どうすれば要望にこたえることが出来るのかをしっかりと検討していれば、その努力がお客様にも伝わり、お客様自ら色々な提案をして下さることもあります。最近、担当させていただいた２件の商談は「事業所側が色々なことをしっかりと検討し、取り組んでいるのだなぁ」と感じる事が出来ました。

明日があるさ

中山　庸子

皮肉なものです。昨年末除雪の仕事の依頼があったのですが、この雪の多さを見ると成約にならなくてよかったのかなとさえ思えてしまいます。

でも、大寒も過ぎて、節分も過ぎ、雪祭りも終わってみれば、そこにあるのは春の訪れでしょう。日差しも春を告げる強さで（紫外線に注意が必要です）営業車に乗るとサンバイザーがもっと長ければと思ってしまいます。

今は、ホテルを回っていますが、授産製品の販売につながれば良いと思いながら、施設管理費の高さにどうしようもなくやりきれなさを感じますが、何処か判りませんが、きっと製品を置いてくれるところがあるはずと信じて訪問を繰り返しています。

今までもがっくりくる事よりも、明日に向かった希望を胸に営業を繰り返してきたのだからネ。ドンマイ！ドンマイ!!ドンマイ!!!

元気ジョブの営業活動って？

大加瀬　敦

もしかしたら、『元気ジョブってどういう営業活動をしているの？』なんて疑問に思っている奇特な方もいるかもしれませんので、ちょっとネタばらしをしてしまおうと思います。

我々が飛び込みで企業や官公庁を廻る時には『札幌市の委託事業』であることを強調します。これで大きな企業や官公庁では門前払いや居留守を使われることがほぼ無くなりますので（笑）

中に入った我々営業マン（ウーマン？）は外注等を担当している部署へアタックを仕掛けることになり（大体は総務・庶務）ここで、パンフレットを見せながら（１Ｐ目は市長の顔写真＋α！）我々の事業内容を説明していきます。

ですが多くのケースでは、元気ショップと間違われたり、障害者求人の話をはじめられたりします（我々の目標は工賃の向上であり、就労となると出来る事はあまりないのです）それでもめげずに、お仕事下さいっ！と話続けると「何が出来るの？」という話になっていきます（検討しますと言われて終わることも多々有）営業用チラシも取り出し、内職的作業から役務提供、授産品の製造と色々やります！

なんて言ってみるのですが、幅が広すぎて戸惑われてしまうこともしばしば（営業力不足！反省!!）あとは先方のお話を伺い、少しでも関われる作業がないか探っていく…と。

続きは…またの機会に他の人が書いてくれるでしょう（笑）

共働サービスたねや

〒063-0812　札幌市西区琴似２条５丁目 3-5 マンション MOMO1F
TEL : 011-614-1871　　FAX : 011-613-9323

仕事内容

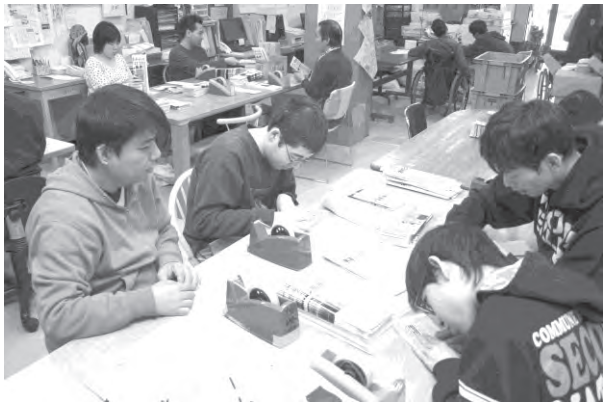
今回から仕事内容は軽作業部・シュレッダー部・清掃部に分かれて各部報告して行きたいと思います。

★軽作業部★

今のたねや

山本　守一

「たねや」となって再スタートをして仲間も増えてきて、今は清掃チームを組んで、ポスティングで作業を頑張ってくれている人がいて、この頃になって皆が頑張っている光景がみられるようになってきた。皆も真剣に作業をしているように、僕には見えてきた感じがします。朝来て３時ごろに納品する商品も、皆の力で難なくクリアするところまでこぎつけました。後は自分たちのみんなの腕にかかっていると思います。頑張ったらたねやは大きくなり、きばりやから仕事を回して下さいといえるようなたねやにしたいとものだと思います。たねやのみんなで頑張りましょう。



★シュレッダー部・研修中★

勉強してみて

小山　譲

現在、機密書類の定義や「秘」、「社外秘」などの事をしているのですが、聞いたことはあれど、厳密に調べてみると難しいものです。エコの意識が高まってることもあり、シュレッダーにかけなくてもいいものをかけてしまえば、いわゆる無駄なゴミになるわけです。ですが、何気ない広告の裏に上記の該当するものや個人情報が印刷または書かれていれば、それはシュレッダーにかける対象物になります。詳しく言えば法律など事が出てきますが、今回は自分なりに勉強したことをわかりやすく解釈しただけなので間違えてるかもしれません。間違えている事に気がついた方がいましたら訂正の情報をお願いします。それもまた勉強になりますので。短い文章ですが、今回は失礼します。次回も記事を書きますので、暖かい目で見守ってくれると嬉しいです。

★清掃業務部★

頑張ってます！！

嬉野　健人

階段をモップではいた。音楽室の窓をふいた。ダンボール窓をふいた。体育館の窓をふいた。てすりをふいた。洗面器を洗った。こいさびを拭いたら手が真っ黒になった。

今月のひとこと

春に向かって

寺嶋　峰子

まだまだ、雪が多い日が続いていますが、転んだりしていませんか？たねやの中には何回か転んでいるという人が何人もいます。気を付けたいです。B型工賃アップを目指したこの一年。清掃の仕事（週５日）が入りましたが、まだ一部の人達なので、それぞれが前に進んで行けるように、意識と勇気と強さを持てればと思います。

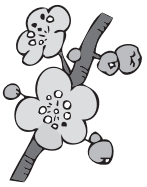
札幌市障がい者協働事業
共働事業所 きばりや キバラネット
個性豊かなスタッフが共に働いています。

春が近づくと…

所長　岡田　悟

立春も過ぎ、暦ではすでに春になりました。気温も徐々に暖かくなってきているのか、雪解けの水が歩道に溜まり、歩きづらい日が続いています。そんな季節は同時に年度の終りが近づいているということも知らせてくれます。

毎年のようにこの時期になると、今のきばりやのままでいいのだろうかと悩む毎日を送ることとなります。仕事のスピードは当初より断然アップしているが、それが仕事への意欲と比例しているか……最近そうではないように思えます。きばりやで時々感じる作業所時代のフワフワした空気や常勤スタッフが残業をして仕事を終わらせてくれるといったオーラ。障害がある部分はみんなでサポートをと昔は言っていましたが、言葉にできない矛盾を感じることもあります。



雪と同時に私の悩みも溶け、暖かい春が来ればいいなと思う今日この頃です。

精神障害者について聞いて

織本　亜哉子

去る、2月7日にたねやでゆい主催の研修会「精神障害入門」がありました。心の健康センターから保健師の清水さんがきて精神障害について説明してくれました。

最初は精神障害は怖いとか、精神病でなやんでいることで大変と思っていました。

清水保健師の話を聴いて、初めは統合失調症の説明をしてくれました。失調症は精神病院に入院して、薬を飲んだら、ずっと飲み続けなくてはいけないと言ってました。飲むのを止めたら、病気が再発してしまうと言っていました。

統合失調症の人は幻覚でそこにいないのに何か自分のことを言っているように聞こえるみたいです。人格障害のひとは自殺未遂をしたり、腕をカッターで切ったり、かんしゃくを起こしたりするようです。

そのあと、発達障害のことを教えてくれました。今まで、自閉症はメモに１日の予定を書かないとかんしゃくを起こしてしまいます。今まで多動性障害の名前は聞いたことがあったけど、始めて、こういう人が多動障害と分かりました。クラスのなかで椅子に座ってられなくて、動きまわってしまうそうです。学習障害というのもあります。言葉に書いてあることは分かるけど、答えを出して書くことができない。私も、学生の時、文章は読むことはできるけど、意味が分からなくて答えが書けないことがありました。

時々、文庫本を読んだり、マンガを読みます。絵本を読むのも小さい時から好きです。

今年の目標

山本　滋基

毎日楽しく仕事をして、はっきりと返事をします。ぼくはセッティングの準備の時、たまに間違う時もありましたので、書いた注文を見て、気をつけます。配達の場所は、去年と一昨年は間違った時もありましたので、今年は自分で場所を見て確認をします。

今年もなるべく気をつけます。

共働事業所　きばりや
〒063-0061
札幌市西区西町北７丁目１－５ 斎藤ビル１Ｆ
TEL:(011)669-3810　FAX:(011)669-3808

Cafe de キバリヤより

長い冬も峠を超えたのでしょうか。朝、東の空が白むのも早くなった気がします。

春は一歩ずつ近づいてきていますね。でも、油断は禁物。身体を冷やさないように気をつけましょう。

カフェでは暖かいスープや飲み物を用意して皆様をお待ちしております。

〒060-0808
札幌市北区北８条西３丁目札幌エルプラザ内
３Ｆ 喫茶コーナー　TEL/FAX:(011)758-6533
※エルプラザ内配達承ります。

キッチンとこだわり品の店
コン・ブリオ ひだまりコーナー

ひなたぼっこ

コン・ブリオひだまり TEL(011)615-4131
西区琴似2条3丁目2-37 サンハイム１Ｆ
ひだまり配送センター TEL(011)613-0611
西区二十四軒4条6丁目5-32 テラニ十四軒１Ｆ
コン・ブリオひだまりに配送センターができました。

ひだまりで　お雛様の準備はいかがですか？

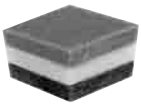
☆ひなあられ 45ｇ **273円**
国内産もち米の風味を生かした
ほんのりやさしい色合いのあられです。

☆ひし餅あられ 45ｇ **336円**
ひな祭りにちなんで菱型に焼き上げた、
醤油・エビ・青さのりミックスあられです。

☆ひなポン菓子 60ｇ **368円**
甘みを抑えた3色のポン菓子を可愛い菱形に切り分けました。

☆ひなかりんとう
70ｇ **326円**
お子様でも食べやすいミニサイズの可愛いかりんとうです。

☆桜ようかん
150ｇ **473円**
有機抹茶を使用した抹茶ようかんの上に、桜の花をちりばめました。



☆ひしもち 160ｇ **557円**
山形県庄内のもち米種「でわのもち」を杵つきしたひしもち。
自生のよもぎと紅麹色素でやさしい色を添えました。

☆ひなまつりポップコーン 120ｇ **525円**
国内産のコーンを使い、人気のキャラメル味に仕上げました。

キッチンレシピ

蒸し鶏のちらしずし

☆作り方：

1．米…カップ２は硬めに炊き、熱いうちにすし酢（酢・大さじ３　砂糖・大さじ１　塩小さじ少々）を混ぜる。
2．蒸し鶏…60ｇは皮を取って細かく割く。
3．戻したワカメ…10ｇは水気を絞ってザク切りにする。
4．ブナシメジ…１パックは醤油・みりん各小さじ２でいり煮する。
5．レンコン…４㎝は半月切りにしてさっとゆで、熱いうちに（酢・大さじ１　砂糖・小さじ１　塩少々）を合わせたものにつける。
6．器に酢めしを盛り、蒸し鶏・シメジ・ワカメ・レンコンを乗せ、錦糸卵を散らして出来上がりです。

メンバーからの一言

出張販売で、せっきゃくや計算をまちがえないで、２度聞きしないでしたいです。今年の目標は、計算・記入ミスしないでしたいです。
蜂谷　和輝

店についてレジ締めをしまし、店番をしました。店舗の掃除をしました。トイレ掃除をしました。がんばります。
吉川　卓哉

ともども新年会　コンブリオ・ひだまり編

お寿司おいしかったです。
新井田　琴江

新年会楽しかった。ダンス踊って楽しかった。
余田　知広

共々の新年会は楽しかったです。ステージでパフォーマンスしました。オードブルなどもおいしかったです。
松橋　勇佑

ステージがおもしろかった。
川村　良一

ともどもネット楽しかった。オードブルおいしかった。抽選会当たりました。
吉川　卓哉

共働事業所もじや
〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションMOMO1F
TEL (011)644-5533　FAX (011)613-9323
E-mail:mojiya@adagio.ocn.ne.jp

印刷・編集・制作・出版・企画
テープ起こし
名刺、小冊子の版下作成
ホームページの作成管理

Mojiya

イラストレーターとエクセルの練習

渡邊　重治

１月の始め頃からパソコンで広告などが作れるイラストレーターを使って、ライフで毎月発行している機関誌アドボケイトの１ページを１番作りやすいページで練習をしています。

文章をテキストボックスに流し込んだあとのアウトラインの作り方、文字の位置、感覚がつかめなくて大変難しかったですが、最近やっと覚えて作れるようになってきました。その他タイトルと名前、本文の文字フォント、サイズを違うようにしなければいけないのと、本文の行間も変えるので覚えるのが大変です。１ページ作るのにはパソコンの操作など、色々と覚えることがあり大変です。頑張ってアドボケイトの作成手順を見なくても、つくれるように頑張って覚えたいと思っています。

エクセルは全く使ったことがありませんでした。もじやで一緒に働いてる人が別の仕事のため、請求書のデータをうちこむ仕事をして、自分だけかもしれませんが、びっくりしたことがありました。エクセルの中にすでに請求書の表が出来ていて、その表の中にうちこむだけなんですけれど、一文字一文字うちこむのではなく、パソコンのキーボード１つをおすだけで、野菜の名前が出てきたり、金額の数字を打ち込むと請求書の表の中で金額の計算が自動でしてくれ、とてもびっくりしたのは、聞いたことがない野菜の名前があって、どんな野菜だろうと思うことがあって、一緒に働いてる人に聞いたりインターネットで調べたりして、この野菜食べてみたいなと思う野菜がありました。

いつも新しい仕事をする時（教えてもらって覚える時）緊張しますけれど、最近仕事を覚えることが大変楽しく感じています。

食と、仕事に思うこと

南條　恭彦

１年を通して人々に愛されている食事の１つにお寿司があります。新鮮なネタと食感の良いシャリ、それに鼻がツンとなってピリッとした味のワサビがなんとも言えない絶妙なごちそうです。昔は何か家で特別なことがあれば、食べるごちそうでした。しかし最近、お寿司屋さんは回転寿司にそのシェアを奪われ、今ではお寿司屋さんの数も減ってきています。回転寿司のお寿司も昔より新鮮なネタとシャリが使われており、従来のお寿司屋さんにひけをとらないすばらしい食べ物になりました。回転寿司は価格的には安価なので年間に行く回数を増やして行くことができるので、まさに庶民感覚の最前線を極めた食べ物として親しまれています。

このような流れは印刷業界でも同様なことが言えると思います。印刷経費がかからないように印刷機械の改善をおこなって、印刷物の文字や写真、絵柄などで人々の興味や関心を引くような技術面での工夫をすれば当然売上も上がるでしょうし、経費節減の努力、例えば印刷物に使う紙のロスを減らすなどして経費を軽減すれば印刷会社の経営にとってとても効率のよい作業環境を整えることができるので、日本の印刷業界も未来に向かって可能性のある操業ができるように努力できれば、もっと発展できる業界になると思います。

おじさんの時代背景は

おじさんが子どもの頃は、父親が宴会の時、必ず「お寿司」を買ってきてくれた。普通９時に寝るところを12時まで起きていた。あの頃はそれが楽しみだったなぁ…。　by sin

ヘルパー派遣業務・在宅介護支援
ヘルパーステーション　繭結（ゆい）

2011年２月15日 朝日新聞の記事全面掲載

知的障害者　介護で働く

対人サービスには向いていないと思われがちな知的障害者が、高齢者の話し相手をしたり食事介助をしたりする介護職に活動の場を広げている。知的障害者を対象にした養成研修もあり、「ケアされる側からケアの主体に」という期待も出ている。

ヘルパー養成研修で資格

認知症の高齢者９人が暮らすグループホーム中重（滋賀県長浜市）。朝食後、知的障者のある香里さん（26）が、洗った食器をふいたペーパータオルをていねいにたたんでいく。

「これ、どうするん？」。入居者男性（90）が尋ねると「床ふきに使うの。エコロジーでょ？」と香里さん。「節約はええことやな」と言う男性に、香里さんは笑顔を向けた。

時に沈黙あり、時に会話あり。静かでゆったりした間合いが、入居者とのかかわりを深めている。入居者の生活リズムに合わせたトイレ誘導は、香里さんならでは。「家で練習中」という洗濯物をたたむ作業は少し苦手だが、女性入居者（95）が進んで手伝う。中川尚典施設長は言う。「大切なのは技術よりも人を思いやる心。彼女の穏やかさと細かな気遣いはお年寄りの支えで、彼女の存在が生きがいを見いだすことにつながる」

香里さんは４年ほど前、姉に勧められて介護職を志した。滋賀県の委託を受けた民間団体による知的障害者対象のホームヘルパー養成研修に２カ月ほど通い、３級を取得。介護事業所から障害を理由に断られたこともあったが、ハローワークの紹介で面接試験を受け、昨年８月から中重で働く。

体調に波があるため定期的な通院が必要。初めは週２～３日の勤務だったが、最近は４日続けてフルタイムで働く。ミーティングへの参加や介護記録にも挑戦中だ。

滋賀県のモデル事業のため、当初の雇用期間は半年間。だが、中川施設長は「自立を支援するなら継続して雇用しないと意味がない」として正式に採用した。香里さんは「父と母に甘えず生活できるように、早く一人前になりたい」と意気込む。

大阪市東成区の特別養護老人ホーム「ハミングベル中道」で７年前から働く松本弘さん（38）も知的障害者。脳梗塞で倒れた祖母の介護経験もあり、ヘルパー２級の資格を持つ。レクリエーションの司会としての盛り上げ役には定評がある。本当は食事やトイレ介助など直接触れ合う業務がしたいが、今は配膳や掃除が中心だ。

意欲と実際にできることとのギャップに落ち込むことも多く、施設側は昨年10月から松本さん用に業務リストを用意した。「ゴミ集め」「レクリエーション補助」などの項目ごとに職員が「○」「△」「×」で評価してコメントを記入。これが松本さんのやる気を引き出している。

知的障害者６人が働く特別養護老人ホーム

「花嵐」（大阪市東住吉区）では、職員や人事担当者らによる就労支援チームが特性に応じた業務内容を考え、継続して働ける環境づくりを進める。３カ月に１度は、障害者全員と職員がバーベキューなどをしながら話し合う。花嵐を運営する法人の水野博達副理事長は「善意に頼るだけではいけない。業務に応じた賃金体系や業務マニュアル、スキルアップの方法を整備し、受け入れ施設を増やしたい」と話す。

ケアされる側からする側に

厚生労働省の障害者雇用実態調査（2008年度）によると、５人以上の民間事業所で働く知的障害者は推計７万３千人。「医療・福祉」は4.6%にとどまるが、2003年度に比べると3.4ポイント増と上昇傾向だ。

大阪市職業指導センターが10年までに行った全国調査では、東京都や山梨、静岡、宮崎の各県などにある47の事業所などが、知的障害者向けのヘルパー養成研修を実施。きっかけの半分は「行政からの委託」だが「受講希望者のニーズ」も４分の１を占めた。ただ、次年度以降の実施予定が「ない」か「どちらともいえない」と答えた事業所は半数近く。理由に「スタッフの負担が大きく、財政的にも厳しい」などが挙がった。

行政と事業所 広域連携を

広島国際大学の関宏之教授（社会福祉）は「知的障害者には、コミュニケーションを好むなど対人サービスの特性に合う人もいる。介護現場の人手不足を補うためにも、ケアされる側からケアする主体として活躍できる支援が不可欠。複数の自治体や事業所が連携して広域で研修を行い、財源を出し合う仕組みが必要だ」と話している。

ヘルパーステーション 繭結

所 長 佐々木 泰 彦

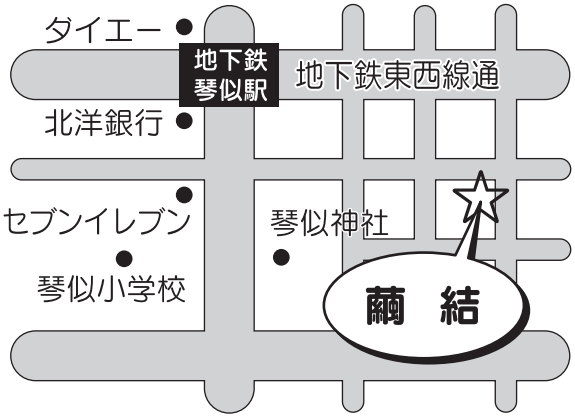
現在、介護の仕事につく人が少なくなっている中、ライフのたねやで活動している井口くんは、最近ヘルパー２級をとって少しでも仲間の役にたちたいと頑張っています。

施設やグループホームで働いている知的障害者の人はいますが、在宅で働くヘルパーがどんどんへっている状況で、障害者が障害者を差別しているようでは、なかなか解決はしていかないでしょうね。在宅では外見で判断されて、せっかく資格をとっても働く場所がありません。

この記事のようにお年寄りの身の回りの介助や話し相手になっている知的障害者の人がいる中で、身体の障害をもつ当事者たちは拒絶する場合が多い。同じ様に障害を持っている人でも、知的障害者のヘルパーは話が通じない、理解力がないなどはじめから受け入れない人が多く見られます。

とある話で、ヘルパーによくクレームをつける利用者のところに知的障害を持つヘルパーを受け入れてもらい、しばらくして様子を伺うと思いもよらない返事が返ってきたそうです。いつものように、風呂場の掃除を「スポンジを使って」と頼んだところ、そのヘルパーは、はじめに手で浴槽を洗い始めたそうです。「なぜ、スポンジを使わないのか？」と聞くと「素手のほうが、どこが汚れているかわかるからです」と答えその後スポンジで洗い続けたそうです。その利用者は、一般のヘルパーには気がつかないところに気がつき、細かく一生懸命だと評価していたそうです。

いろいろと問題視する前に、関わりを増やしていくことで、同じ仲間としてお互い苦手なところや、補えるところを支えあい、彼らのよいところを引き出していけるように一緒に活動していきたいと思っています。



札幌市西区二十四軒4条6丁目5－32 テラ二十四軒１F
TEL 011－623－2505 FAX 011－644－0088

私のオススメ

北方謙三「水滸伝」には気をつけろ、中毒症状を引き起こすぞ

理事　**織本 義昭**

北原版「水滸伝」は驚くなかれ19巻、長いようにも思えるが、でも１回乗ってしまえば暴走モード突入。アッという間にぶっ飛び終着点をむかえてしまうぞ。

今から1000年前、中国の宋の時代。時の権力に叛旗をかかげ梁山泊に集まった108人を中心としたキャラが立った破天荒な漢（おとこ）の物語。思想ではなく志に結集。筆者によればキューバ革命をモチーフにしたという。

読み始めると聞こえてくる戦いの怒号と歓声、汗と血の匂い、死臭さえただよってくるのだ。

例えれば、寒いなか冷えた体で温泉の露天風呂。入った瞬間出るうめきというか、タメ息というか、歓喜の声か、「ウゥーーー」徐々に体もほぐれ極楽気分、そのうちあまり長く浸っているとのぼせ上がって身も心もクタクタ。そうなのだ、この「水滸伝」を読むには気力と体力が欠かせない。

人が生きていくためには、お前の好みがおかしいと云われても、愛する人、本、絵、音楽、、、が必要だ。この「水滸伝」はその１冊になりえる。

北方に興味のある方は、「水滸伝」の続編の「揚令伝」、その前段ともいうべき「揚家将」、日本の歴史を舞台としている「絶海にあらず」「破軍の星」「楠正成」とりわけ「林蔵の貌」がお勧め。北方中毒の仲間求む。

内容紹介

十二世紀の中国、北宋末期。重税と暴政のために国は乱れ、民は困窮していた。その腐敗した政府を倒そうと、立ち上がった者たちがいた―。世直しへの強い志を胸に、漢たちは圧倒的な官軍に挑んでいく。地位を捨て、愛する者を失い、そして自らの命を懸けて闘う。彼らの熱き生きざまを刻む壮大な物語が、いま幕を開ける。第九回司馬遼太郎賞を受賞した世紀の傑作。

ご協力ありがとうございます

賛同会費

吉田　せつ子様

アドボケ購読料

北海道労働者協同組合　田中　鉄郎様

編集後記

暦の上では春ですが、北海道はもう少し先です。例年の「雪まつり」が終わって雪像が壊されると春は近いと実感します。一昨年にも感じましたが、不況のせいなのか、ロードヒーティングを切っている所も多々あり、余計に歩きづらくなっているように感じます。春には統一地方選挙がありますが、候補予定者の方々は、こんな実態を知っていただきたいですね。もちろん全てロードヒーティングにすることは無理なことは誰だって分っています。どうやって人と人が支え合っていくのか、その大きな方向性を示す役割が議員の方々にはあると思います。　（タケ）

アドボケイト　如月号（第123号）

2011年2月10日発行（毎月10日発行）通巻第467号
HSK通信1973年1月13日第3種郵便物認可
発行人/北海道身体障害者団体定期刊行物協会
細川　久美子
〒063-0868 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
編集人/NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ
事務局長　我妻　武
〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションモモ1F
TEL 011-614-1873　FAX 011-613-9323
E-mail　honbu@npolife.net
ホームページ　http://npolife.net/
郵便振替口座　02710-4-63485